

C-1 IT業界のプロジェクトマネジメントは破綻するか?
 8/31 10:00 先達の業界に学ぶ
株式会社クロスリンク・コンサルティング
 代表取締役社長 拜原 正人

■ **セミナーの狙い** 近年のITプロジェクトの成功率は30%強に過ぎない。しかも、企業経営/ビジネスの変革に伴うITプロジェクトの短期導入、ITプロジェクト環境の複雑・多様化、プロジェクトマネジャーの人材不足などから、今後も予断を許さない状況にある。この危機感の下で、プロジェクトの成功率が70~80%と言われる先達の業界に学ぶことは、歴史の浅いIT業界のプロジェクトマネジメントの現在の相対的位置確認と共に、他業界にないIT業界固有の問題の気付きにもなる。本セミナーでは、他業界のプロジェクトマネジメントから得た知見を加味して、IT業界のプロジェクトマネジメントの現状と今後の課題/方向について俯瞰を試みる。

■ **セミナーコンテンツ** ①ITプロジェクトの危機事例に見るIT業界の課題 ②先達の業界に見る課題克服の叢智 ③先達の業界にないIT業界固有の問題の解明とプロジェクトマネジメントへの反映

■ **受講をお奨めする方** ①企業/組織変革の責任者で、PMを変革のための重要なツールと考えてる方 ②オーナー、コントラクター(Sier)などのPM統括責任者/プロジェクトマネジャーでPMに熱い思いあるいは問題意識を持ってる方

■ **講師略歴** 1970年日本電信電話公社研究所へ入社。研究所・大手企業共同開発大規模オンラインシステム・プロジェクトDIPSの当初から撤退までを担当。100を超える大規模ITプロジェクトのマネジメントに携る。97年、NTTソフトウェア取締役に就任。2003年、50を超える危機プロジェクト再建ノウハウを活かして、プロジェクト危機救済を請うクロスリンク・コンサルティング社を設立、代表取締役に就任。現在、プロジェクト危機の回避を図るリスクマネジメント、高度PM人材の育成に業容拡大。PM学会、IAP2M学会、PMAJ会員

C-2 ITマネジャーのためのコミュニケーション術
 8/31 13:45 チーム力を強化するために
グローバルナレッジネットワーク
 人材教育コンサルタント 田中 淳子

■ **セミナーの狙い** プロジェクトチームの成果は、マネジャーがメンバーとどうコミュニケーションを図るかに大きく影響を受ける。メンバーのやる気を刺激する一言、手戻りを発生させない上手な指示、成長につながるフィードバックの与え方など、コミュニケーションでカバーできる事柄は多い。人は、往々にして相手が変わってくればよいのに、と誤ってしまいがちだが、他人を変えるのは難しい。それより、自分のコミュニケーションのとり方を変えることでメンバーとの関係やチームの力などを変えていくほうがよい。性格などに依存すると考えられがちなコミュニケーションには、誰でも学習できる「スキルやテクニック」がある。このセミナーでは、マネジャーがメンバーとどうコミュニケーションをとるべきか、具体的なスキルやテクニックとして学ぶ。

■ **セミナーコンテンツ** ①ミスコミュニケーションの例 ②仕事の指示の出し方 ③成果へのフィードバック方法(褒め方、改善の指摘など) ④メンバーを動機づけるコツ ⑤チームのコミュニケーションを活性化するための提案

■ **受講をお奨めする方** コミュニケーション・スキルを棚卸し、より向上したいマネジャーやリーダー

■ **講師略歴** 1986年上智大学文学部教育学科卒業、日本デジタルイクイップメントにてITとヒューマンスキルの教育事業に従事。1996年グローバルナレッジネットワーク入社、ヒューマンスキル分野の人材育成に携わる。著書『速効! SEのためのコミュニケーション実践塾』『速効! SEのための部下と後輩を育てる20のテクニック』(日経BP社)、『はじめての後輩指導-知っておきたい育て方30のルール』(日本経団連出版)。2007年1月から「日経コンピュータ」にて「ITマネジャが知っておくべきコミュニケーション術AtoZ」連載中。

E-1 プロマネはなぜチームを壊すのか
 8/31 10:00 本物のプロジェクトマネジャーになる
アイシンク株式会社 代表&CEO 伊藤 健太郎

■ **セミナーの狙い** プロジェクトを遂行するのはメソドロジーではなく、生身の人間である。プロジェクトマネジメントの知識体系はプロジェクトでの問題発生確率を低下させるのに役立つツールであるが、それを最大限に利用できるかどうか、また問題発生時に適切な対応ができるかどうかはプロジェクトマネジャーのヒューマンスキル(人間力)が大きく影響する。今回は、プロジェクトマネジャーに必要なヒューマンスキルについて自覚、チームのパフォーマンス向上、組織のサポートの視点から検討していく。

■ **セミナーコンテンツ** 1. チームのパフォーマンスとプロマネの責任 2. 組織(PMO)のサポートのあり方 3. プロジェクトマネジャーの人間力の正体

■ **受講をお奨めする方** プロジェクトを成功させることに責任を持つ意志のある方

■ **講師略歴** 福岡生まれ。九州大学大学院を卒業後、NKK(現JFE)にて、船用エンジンの製造、環境プラントの設計、プロジェクト業務に携わる。2000年にプロジェクトマネジメント専門のコンサルティング・トレーニングを行うアイシンク株式会社を設立。著作として、「成功するプロジェクトマネジメント」(中央経済社)、「戦略的エンタープライズ・プロジェクトマネジメント」(翻訳、生産性出版)、「プロジェクトはなぜ失敗するのか」(日経BP社)、「プロマネはなぜチームを壊すのか」(日経BP社)などがある。

E-2 構えろ、狙え、撃て
 8/31 13:45 正しいことを正しく行うために
プラネット株式会社 代表取締役 中嶋 秀隆

■ **セミナーの狙い** 「正しいことを正しく行え」という考え方は、プロジェクトマネジメントの世界では常識化してきた。しかし、これは口で言うほどやさしくはない。獲物を銃でしとめる時には「構えろ、狙え、撃て」という行動をこの順番に従って行う。このことに異論はないだろう。しかし、プロジェクトの現場では、「構えろ、狙え、撃て」の悪しきバリエーションが少なくない。その典型例が「撃て、構えろ、狙え」である。ここでは、多くのプロジェクトの実態が「撃て、構えろ、狙え」になってしまう背景やその影響、防止策について、いくつかの視点・観察を紹介し、聴衆のコメントをいただきたい。

■ **セミナーコンテンツ** ①「構えろ、狙え、撃て」 ②ストックデールの逆説 ③「底打ち感」を支えるもの ④プロジェクトのスコープ定義・変更管理とプロジェクト・マネジャー ⑤「正しいことを正しく行う」ために

■ **受講をお奨めする方** プロジェクトのあるべき姿を、原則に立ち返って見直してみたい方。プロジェクトの現状に問題があると感じている方。プロジェクトのスコープ定義や変更管理につき、改善したいと望んでいる方。

■ **講師略歴** プラネット(株) 代表取締役社長。PMP®。同社はPMの公開セミナーでわが国最多の実績を誇り、多くのプロジェクト・マネジャーやPMP®を輩出。さらに、プラネットに続き、(株)ロゴで「クリティカル・チェーン」、スマートビジョン(株)で「パーソナルPM」を展開。京セラ、インテルなど、日米の有力企業に約20年間勤務。インテルでは「ベンティアム」の量産他仕上げプロジェクトに参画。慶応大学非常勤講師、中京大学大学院客員教授。PMの定番書籍である「IPMプロジェクト・マネジメント」など、著書・訳書多数。

D-1 ITプロジェクトのリスクマネジメント
 8/31 10:00 標準リスクモデルの適用と活用事例
土出技術士事務所 土出 克夫
株式会社日立東日本ソリューションズ 澤田 美樹子 SIG

■ **セミナーの狙い** 本セミナーはSIGで作成した「ITプロジェクト実践リスクマネジメント・ガイドブック」を下に、特にSIプロジェクトにおけるリスクのワナとリスク事象例を整理・紹介するとともに、いくつかのリスク事象をケーススタディの形で標準リスクモデルに適用し、その活用方法、有効性を解説することを狙いとする。

■ **セミナーコンテンツ** ①リスクと問題、ITプロジェクトの特性からみたリスク及びリスクマネジメントの捉えかた ②SIプロジェクトにおける商談開始からプロジェクト遂行に見られるリスク識別のポイント(大項目8と中項目50)、各項目に関わるリスクのワナとリスク事象例 ③スミス&メリットの「標準リスクモデル」の概説、リスク事象例における活用方法と有効性のケースによる考察他。

■ **受講をお奨めする方**
 ・リスクマネジメントに悩んでおられるプロジェクトマネジャー
 ・SIビジネスを推進・監理されているマネジャー
 ・PMOの立場でプロジェクトをサポートされているスタッフ

■ **講師略歴** 土出克夫: 大手SI'erにてフィールドSE、共通技術管理、ラインマネジャー、ISO9001QMSの構築・推進の後、プロジェクト監査・指導、PM研修教材開発・同講師等プロジェクトマネジャー育成に従事。2006/7に独立、引き続きPM関連研修講師等。PMP®, PMS。澤田美樹子: 大手製薬会社システム開発プロジェクトなどのプロジェクトマネージャを経て、2001年から様々な分野のリスク分析コンサルティングに従事。PMP®。

D-2 全体最適のマルチプロジェクトマネジメント
 8/31 13:45 TOC-CCPM成功の極意
株式会社ビーイング 取締役 岸良 裕司

■ **セミナーの狙い** ますます複雑化する現代のプロジェクト現場。経営現場はマルチプロジェクトが現実。この現実に対応するためのパワフルな全体最適のソリューションを提供しているTOCクリティカルチェーン(CCPM)について、マルチプロジェクトマネジメントに特化し、そのインプレメンテーションの成功の極意について議論する。

■ **セミナーコンテンツ** 良かれと思って導入した手法がなぜかえって現場を苦しめるのか? なぜ、マルチプロジェクトが混乱するのか? 複雑な現状をいかにシンプルに取り扱うか? なぜCCPMがマルチプロジェクトにおいて劇的な効果があるのか? 従来とのPMとの違いは何か? そして、従来とのPMとの相乗効果を作るインプレメンテーションの手法を紹介しながら、精神論に偏りがちな人的マネジメントに実践的かつわかりやすいロジカルなマルチプロジェクトマネジメント手法を紹介する。

■ **受講をお奨めする方** 製造業、IT関連、建設関連、自治体関連、研究開発分野の経営幹部、PMO、プロジェクトマネジャー、リーダー、メンバー

■ **講師略歴** 1959年生まれ。(株)ビーイング取締役。日本TOC推進協議会理事。84年京セラ(株)に入社。主にハイテク技術開発のマーケティング強化に取り組む。2003年、ヘッドハンティングされ、土木積算業界のソフトでトップシェアを誇る(株)ビーイングに入社。その活動は、幅広い分野で目覚ましい成果をあげ、ゴールドドラット博士からも高い評価を得ている。講演は、わかりやすく、実践的との定評がある。昨年PMフォーラム2006で発表した「三方良しの公共事業改革」は国土交通省の政策に今年から正式に取り上げられた。

F-1 21世紀におけるPM技術とは?
 8/31 10:00 遂行技術基盤の改革・改善と技術リーダー育成法
日揮プロジェクトサービス株式会社
 顧問 高橋 良之

■ **セミナーの狙い** エンジニアリング業界は21世紀に入り景気回復の兆候が出始め受注が好調になりつつある、その一方、エンジニアの高齢化、エンジニアの不足の2つが大きな改革・改善のポイントになってきている。その対策として多くスムーズな世代交代を期待しつつも、かならずしも若手のPM、技術リーダーへの遂行技術(トラブル、コストダウン、評価基準等)の伝承・指導が上手くいっていないのが現状である。各実務担当者の想像以上の努力にもかかわらず、思わぬミス、リサイクル作業の増加が発生し、プロジェクトの採算性を悪くしている。またエンジニアの不足を補う対策として国内外の外部リソースの積極的な活用をおこなっているが、外部リソースを積極的活用できるPM、技術リーダーが非常に不足している。その改革・改善のヒントとして①個人としてPM、技術リーダーが早急に具備・修得すべき遂行技術は何か? ②PM・技術リーダーが最大限能力を発揮できる企業のエンジニアリング遂行基盤(例:エンジニアリングプラットフォーム)はないか? について経験を混えて本講演で説明する。

■ **講師略歴** 昭和39年日揮入社、国内・海外の石油精製、石油化学、化学、食品加工、FA関連プロジェクトをプロジェクト エンジニア、エンジニアリングマネジャー、プロジェクトマネジャー、事業部長として担当。現在、日揮プロジェクトサービス(株)の顧問。プロジェクト・マネジメント講座(ENAA)の講師、プロジェクト・マネジメントを基盤とした効果的なプロセクトの遂行についての講師(PMAJ)、エンジニアリング遂行技術アップのためのコンサルティング。

F-2 プロジェクトを成功させる見積りモデルの構築と維持・改善
 8/31 13:45 CoBRA法による見積りモデル構築とその活用方法について
(株)三菱総合研究所情報技術研究センター 主席研究員
 (兼任)IPAソフトウェアエンジニアリングセンター エンタプライズサプリーダ 石谷 靖

■ **セミナーの狙い** プロジェクトの工数、工期の見積りはプロジェクトの成否に大きな影響を及ぼす重要な活動だが、納得できる見積りモデルが見つからず、その場限りのやり方がなされる例が多い。背景には、システム開発への影響要因が多く見積りにばらつきが避けられないのに、その定量化が難しいことがある。過去データでの要因分析は、分析もさることながら多数のデータ収集のハードルも高い。本セミナーでは、適用事例に基づき、少数の蓄積データと熟練者の経験の組合せにより、説明力の高い見積りモデルを構築する方法(CoBRA法)を紹介する。さらに、見積り精度向上のためのモデルの改善方法も解説する。なお、見積り精度向上には見積りに関連する組織プロセスの成熟度合いも重要であることも示す。

■ **セミナーコンテンツ**
 ・見積りを取り巻く課題と解決の方法
 ・見積りモデルの構築と改善
 基本的な考え方/CoBRA法による見積りモデルの構築/見積りモデルの改善方法
 ・見積り精度向上のための組織プロセスの成熟

■ **受講をお奨めする方** PMOやプロジェクトマネジャーなど組織的に見積り方法を構築を考え、現場で活用しようと考えている方

■ **講師略歴** 1988年(株)三菱総合研究所に入社。ソフトウェア開発環境や品質メトリクス計測システム等の構築やユーザ企業のソフトウェア調達ガイドライン作成に従事。最近5年間は、ソフトウェア開発プロジェクトのマネジメントやプロセス改善に関する実態調査や技術調査を実施し、その一環として、情報処理推進機構(IPA)のソフトウェア・エンジニアリング・センター(SEC)設立を支援し、'04年4月にSECに出向、同年10月からエンタプライズ系サプ・リーダ。'07年4月三菱総合研究所に帰任し現職。IPA/SEC専門委員。